

今後の検討の進め方(案)

2020年1月31日
事務局

①新たな社会システムとしての「インクルーシブなAI経済社会」実現に向けた検討

検討の軸①：

将来像（「インクルーシブなAI経済社会」のイメージ）

⇒シナリオ分析を通じて、想定される将来像と（制度的）課題を整理

（第8回における構成員からの関連御発言）

- ・データを集める必要のない社会
- ・AIがトランジスタのような社会
- ・端末のウェアラブル化
- ・実空間のデジタイズ

検討の軸②：

現実（「インクルーシブなAI経済社会」前提条件の整備）

⇒ヒアリングやWebアンケートを通じて、弱者（中小企業・地方企業等）を含むすべての主体がAIを享受するための条件を整理

（第8回における構成員からの関連御発言）

- ・データ活用による企業成長のボトルネック（データドリブンに大多数の企業がついていけない現状／産業・地方特有の課題等）
- ・AIとデータの相互活用による経済活性化



検討の成果：

AIによる新たな社会システムを見据えた政策のあり方

②AI時代のデータ経済政策に関する検討

検討の軸①：

「新たな資産」としてのデータの機能・役割、及び効果・価値の測定方法

⇒国内外の先行的な取組を踏まえつつ、汎用性・再現性のある測定方法を検討し、課題を整理
並行して、実現可能な調査・分析を実施。【データ専門分科会で検討】

(第8回における構成員からの関連御発言)

- ・データの処理・分析と質との関係
- ・財産的価値のあるデータの法的整理
- ・時間軸による価値の変動に留意
- ・産業比較の必要性
- ・デジタル課税の議論の基礎に

検討の軸②：

データの効果・価値に応じた正当な報酬のあり方

⇒データとサービスの価値を均衡させるメカニズムの解明【データ専門分科会で検討】

(第8回における構成員からの関連御発言)

- ・GDPで捕捉できていない経済活動で得られる効用の測定

検討の軸③：

データ取引の市場化・可視化に向けた制度設計のあり方

⇒ヒアリングやWebアンケートを通じて、データ取引の活性化のための条件を整理（例：情報銀行、データ取引市場等）

(第8回における構成員からの関連御発言)

- ・個人がパーソナルデータの扱いを自己決定する仕組み
- ・DFFTのT (Trust) を可視化・計量可能なものにする重要性



検討の成果：

AI時代におけるデータ駆動型経済推進に向けて求められるデータ経済政策のあり方

AI経済検討会における当面の検討フレームワーク

①新たな社会システムとしての「インクルーシブなAI経済社会」実現に向けた検討

【検討の軸①】

将来像（「インクルーシブなAI経済社会」のイメージ）

【シナリオ分析】

【検討の軸②】

現実（「インクルーシブなAI経済社会」前提条件の整備）

【ヒアリング】
【Webアンケート】

AIによる新たな社会システムを見据えた政策のあり方

②AI時代のデータ経済政策に関する検討

【検討の軸①】

データ取引の市場化・可視化に向けた制度設計のあり方

【ヒアリング】
【Webアンケート】

【検討の軸②】

「新たな資産」としてのデータの機能・役割、及び効果・価値の測定方法

【検討の軸③】

データの効果・価値に応じた正当な報酬のあり方

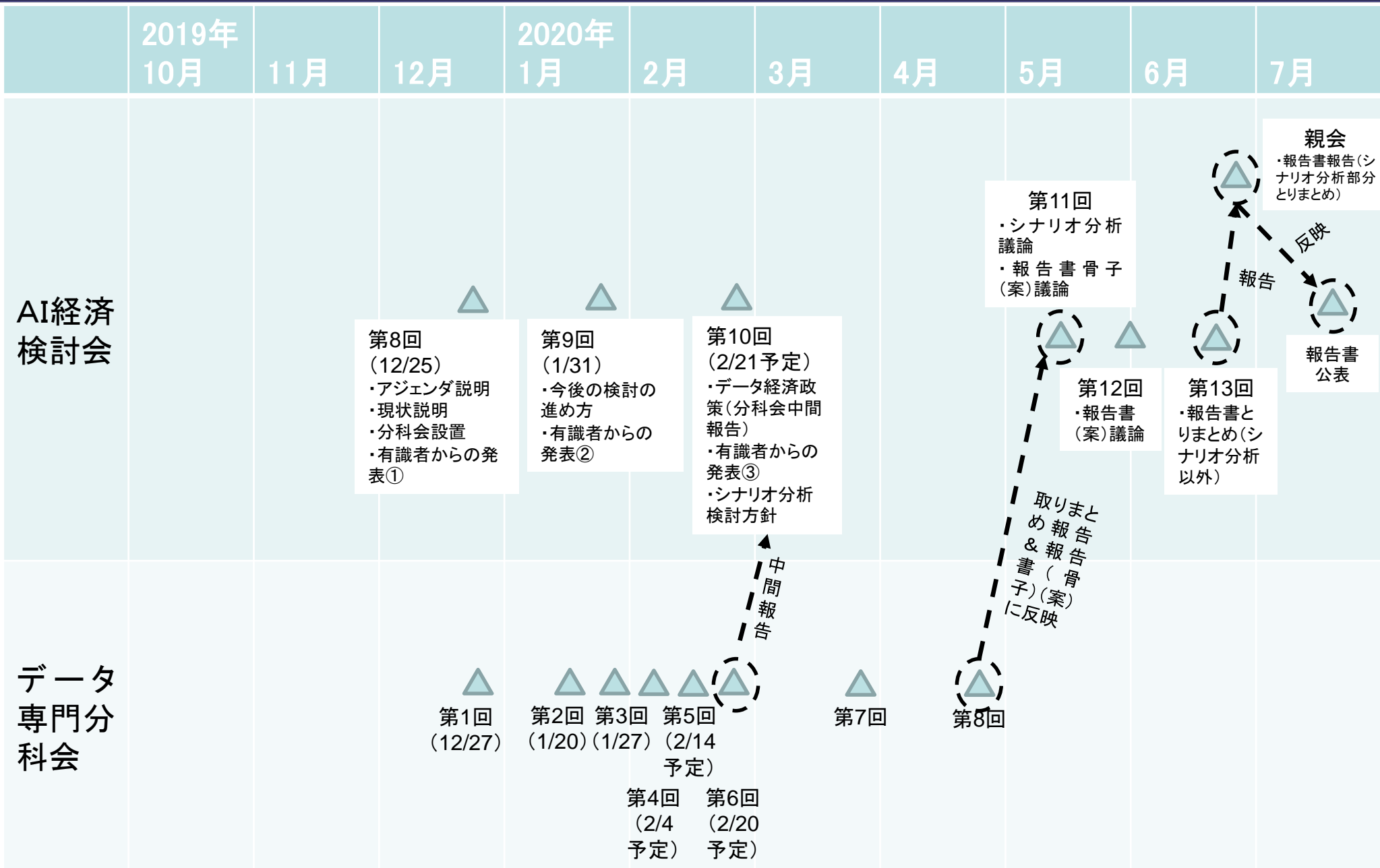
AI時代におけるデータ駆動型経済推進に向けて求められるデータ経済政策のあり方

： AI経済検討会で議論

： データ専門分科会で議論

： 本日のスコープ

(参考)想定スケジュール



第9回(2020年1月31日)

- ① 今後の検討の進め方
- ② 有識者からの発表②(我が国のデータ活用・取引に関する現状について)
 - 中林紀彦 ヤマトホールディングス(株)
 - 田丸健三郎 日本マイクロソフト(株)

第10回(2020年2月21日(予定))

- ① データ経済政策(「データ専門分科会」からの中間報告)
- ② 有識者からの発表③
 - (有識者調整中)
- ③ シナリオ分析検討方針

第11回(2020年5月中(予定))

- ① シナリオ分析議論
- ② 「データ専門分科会」取りまとめ報告
- ③ 報告書骨子(案)議論